

平成 27 年度

# A 日程 入学試験

## 国 語

### 注 意

1. 試験開始の合図があるまで，この冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は 45 分です。
3. 問題は，1 ページから 14 ページまで印刷してあります。試験が始まったら最初に確認し，足りないページがあったら申し出なさい。
4. 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。
5. 解答用紙には，受験番号・氏名を記入しなさい。
6. 試験が終わった後，問題冊子・解答用紙とも回収します。

共立女子中学校

1 次の1〜8の――線をつけたカタカナを漢字で、漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- 1 一流の研究者として名前をツラねる。
- 2 山のヒヨウコウを調べる。
- 3 会社の役員人事をサッシンする。
- 4 仕事を失ってロトウに迷う。
- 5 災害の起きた地域へキュウサイに向かう。
- 6 妹は前がみを垂らしている。
- 7 新しく外国に門戸を開放する。
- 8 ローマ教皇から送られた手紙。

② 次の1～4の各文の□の中には、ア～エのどれかが一つずつあてはまります。一度もあてはまらないことばをそれぞれ一つずつ選び、記号で書きなさい。

1

・生活には□	□	困らない。
・疑問が残っている。	□	
・父は□	□	立ち上がり部屋を出て行った。

ア いささか      イ みすみす      ウ おもむろに      エ さしあたり

2

・場所を□	□	ように。
・この判断は君に□	□	。

ア すこぶる      イ ゆだねる      ウ わきまえる      エ むさぼる

3

・□	□	おじぎをする。
・大変□	□	思いだ。
・このままでは一勝も□	□	。

ア うやうやしい      イ おぼつかない      ウ やるせない      エ おびたらしい

4

・□	□	でうわさになっている店だ。
・植物の成長を□	□	に記録する。
・妹は□	□	に努力した。

ア つぶさ      イ いわく      ウ ひたむき      エ ちまた

3 次の詩を読み、下の問いに答えなさい。

みずうみにはるがきた

井上 良子  
いのうえ よしこ

しろくせまる やまやまのゆき  
いろとけてながれ ほとぼしり  
のやまをぬって びわこのふちへ  
はるのいぶき とくとくと  
ふかいそのの うちがわをふるわせ  
びわこは<sup>①</sup> しんこきゆうする

だいちのくぼみに 四百万年  
どうどうと まみずをたたえ  
いきている

ちきゆうでゆびおりの古代湖  
あおい藻<sup>も</sup>もわたしのからだも  
いまにいのちをたたえてきた<sup>②</sup>  
むかし いきたぞうの化石  
いま いきる進化のさかな

1 線①「しんこきゆうする」とありますが、どういうことですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

- ア 湖の水が新しく入れかわること  
イ 湖が地震でゆれていること  
ウ 湖の水温が急に上昇すること  
エ 湖の水面が大きく上下すること  
オ 湖の水が汚れてしまったこと

2 線②「いまにいのちをたたえてきた」とありますが、どういうことですか。

- 次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。  
ア 古い種族が絶滅して、新しい生物がうまれたということ  
イ 厳しい環境を生きぬき、長生きしてきたということ  
ウ 湖の水によって、いくつもの生命が受けつがれてきたということ  
エ 湖が支える数多くの生物のすばらしさをほめてきたということ  
オ 湖が、あおい藻や「わたし」の生命の尊さをほめてきたということ

3 ③にあてはまることばとして、ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア 底 イ やみ ウ さかな エ ふゆ オ かなた

ながくふるい時間をためて

③ からほころびはじめる  
うまれたばかりの初々しさで  
かがみのようにはるをてらす

はるがきた

はるのよあけだ

④ みずうみにはるがきた

『太陽の指環』 銀の鈴社  
による

4 — 線④「みずうみにはるがきた」とありますが、ここにはどのような気持ち

が表れていますか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 初めて経験することにおどろいている。

イ 何度も経験していて、あきあきしている。

ウ めずらしい現象なので、人々に知らせたい。

エ 心待ちにしていた春の訪れに感動している。

オ 冬の季節が終わるのを残念に思っている。

5 次の中から、この詩で使われていない表現技法を一つ選び、記号で書きなさい。

ア 擬人法    イ 体言止め    ウ 対句    エ 擬態語    オ 呼びかけ

④ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

スカートを好きになったのは、いつからだろう。前は、母さんにむりやり着せられたときなんか、引きちぎってやりたいくらい嫌いだっただのに。

あのころ、あたしは、<sup>①</sup>セージ兄ちゃんみたいになりたかったんだ。ていうか、セージ兄ちゃんそのものに。

兄ちゃんのやることは、なんでもやってみたかった。

兄ちゃんが走るあとについて走って、追いつけないのがくやしくて、泣いた。

兄ちゃんが小川を飛び越したら、まねして飛んで、落っこちて、ずぶぬれになった。

走るのにも、飛ぶのにも、スカートはじゃまだった。ズボンをはきたかった。暑いときには、兄ちゃんみたいに、シャツをぬぎすてはだかになりたかった。兄ちゃんといっしょのかっこうがしたくて、自分で髪の毛をばっさり切って、母さんを泣かせたこともあった。

そのうちに、ほかの子どもと遊ぶことも多くなって、なんでもかんでも兄ちゃんをお手本にしないでいいんだってわかってきたところには、弟のハランがあたしたちのあとを、とことこついてくるようになっていた。ぐずなあの子を守るために、あたしはやっぱり、スカートをはいてなんかいらなかった。

でも、あのころが、いちばん楽しかったな。

兄ちゃんと、あたしと、ハラン。三人で、うちの裏にある森を探検したり、小川で魚をすくったり、山賊ごっこに、スパイごっこ。一日が、あつというまに過ぎていった。

だけど、兄ちゃんはそのころにはもう、あたしたちの面倒をみるのに<sup>②A</sup>していたのかもしれない。あたしとハランが笑いこらげているとき、ひとり真顔で、遠い空を見つめていることがあった。

何を見てるんだろうと思って、あたしは、兄ちゃんの視線の先をさがしてみた。鳥とか、かわった形の雲とか、虹とかの、おもしろいものがあるかと思って。

なんにもなかった。

「兄ちゃんって、変なの」と思った。

いまだったら、兄ちゃんが何を見ていたか、あたしにもわかる。

ここじゃない、どこか。

だって、ここは、自分の居場所じゃないから。ほんとうにいるべき場所は、ほかにある気がするから。

いまなら、それが、あたしにもわかる。

だって、兄ちゃんがあたしたちと遊ばなくなっただけで、気がついたところ、あたしもそんなふうには、遠いところを見つめていた。遠い、どこでもない場所を、ハランの笑い声に意味もなく

②B しなごら。

ふしぎだな。ハランがどじなのも、ぐずなのも、それまでと変わらなかったのに。前には、それでも、楽しく遊んでいられたのに。

たぶん、これは、あのパジャマと同じなんだ。

母さんが作ってくれた、ピンクのパジャマ。ウサギとイヌのアップリケがついていて、あたしは着るだけで、幸せな気分になれた。そのパジャマなしで眠ることなんて、考えられなかったから、母さんは、うんと天気の良い日にしか、あたしのパジャマを洗わないように気をつけていた。

見た目がかわいだけじゃなくて、感触も好きだったな。すべすべ、ふんわりしていて、そのやわらかさで、あたしを優しくくるんでくれた。

それなのに、あるとき、くるまれてるんじゃないかと、締めつけられてるって思った。そのパジャマを着ていると、自由に動けない感じがした。

あたしはそれを、<sup>③さっかく</sup>錯覚だと思おうとした。「気のせいだよ」って自分に言い聞かせた。だけど、そのうち、ボタンをとめるのがきつくなつて、とうとう母さんにいわれた。

「そのパジャマ、もう小さくなっちゃったわね。新しいのを作らなきゃ」

母さんは、そんないいかたをしたけれど、あたしにはわかっていて。パジャマが小さくなったんじゃない。あたしが大きくなったんだ。

大切なものを裏切ってしまったような気持ちになって、うしろめたくて胸がちくちくした。

④ 母さんは、そんなあたしの顔をじっと見てから、にっこりと笑った。

「新しいパジャマ、楽しみにしててね」

何日かして、母さんが渡してくれたパジャマは、前のとまったく同じだった。ウサギとイヌも、同じものが同じ場所についている。何度も洗濯した前のパジャマのものとちがって、ウサギの瞳の赤も、イヌの茶色も、鮮やかで、どちらもひとまわり大きくなっていたけれど、それ以外はまったく同じ。

パジャマも、あたしのからだに合わせて、ひとまわり大きくなっていて、ふわっとあたしをくるんでくれるってことは、着て

みなくてもわかった。

それなのに、あたしはぼうぜんとしていた。

前と同じ表情であたしを見つめるウサギもイヌも、ちっともかわいと思えなかったから。

色あせていない、きれいなピンク色をしたパジャマが、子どもっぽくて、ばかみたいで、ちっとも着たいと思わなかったから。母さんが、小首をかしげながら、あたしの顔をのぞきこんだ。

「どう？」

「わあ、うれしい」

あたしは大きな声を出すと、いそいでパジャマを持ち上げて、やわらかな布に顔をうずめた。その感触だけは、なつかしかった。パジャマの布の中で、あたしは笑顔をつくった。とびっきりのへいい笑顔。それから、パジャマを自分のからだに当てながら、母さんにいった。

「ありがとう。うれしい」

母さんも、目を細めて、にこにこしていた。

あれ以来、あたしはどんなときにも、<sup>⑤</sup>へいい笑顔がつくれるようになった。

それに、あのときあたしは知ったんだ。時間は流れているんだってことを。

それまでも、朝がきたら、昼になって、夕方がきて、夜になるって知っていた。春の花が咲いたら、そのうち若葉が出てきて、暑くなって、夏になるってことも。

でも、時間が流れていることを、ほんとうの意味で知ったのは、<sup>⑥</sup>あのとときだったと思う。

あたしのからだも、あたしの気持ちも、ちよつとずつ変わっていく。どんなに居心地のいいところにも、ずっといつづけることはできない。

だからあたしは、ハランと遊ぶのがつまらないと感じはじめたとき、パジャマのときとちがつて、それを「気のせいだ」とは思わなかった。兄ちゃんが、遠くを見つめるようになって、あたしたちからはなれていった。それと同じことが、自分におこっているんだって、すぐわかった。

——やっぱあたしは、どこかでまだ、兄ちゃんの背中を追いかけていたんだな。

あたしは、外で遊ぶのが、そんなに好きじゃなくなった。そして、スカートが好きになった。ハランにいらいらしてばかりい



るようになった。

でもそれは、しかたのないことなんだ。だって、時間は流れているんだもの。

もう一度、くるとあたしは回転した。

スカートがまた、ふわっと広がった。

このスカート、もっと長ければいいのにな。それに、もっと生地<sup>きじ</sup>をたっぷりってあれば、回ったりしなくても、歩くだけで、足のまわりでふわふわゆれて、うっとりした気分になれるのに。

目をつぶって、前に三歩、さっそうと歩いてみた。長いスカートのすそが、あたしのまわりで踊<sup>おど</sup>っているのを空想しながら。

(沢村凜『通り雨はへ世界』をまたいで旅をする』角川書店 による)

1 線①「セージ兄ちゃんみたいになりたかった」とありますが、このときの気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 行動や容姿をまねることで少しでも近づきたいという兄へのあこがれ

イ 足が速く活発に動き回る兄に簡単に追いつくことのできなくやしざ

ウ 大嫌いなスカートで行動を制限されることのない兄に対する不公平感

エ 母を悲しませることもなく服装も髪型<sup>かみがた</sup>も自由に選べる兄へのねたみ

オ ぐずな弟の面倒をみなくてもよい兄という立場へのうらやましさ

2 ②A、②B にあてはまることばとして、ふさわしいものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で書きなさい。ただし、同じ記号は

二度使えません。

ア はらはら    イ きりきり    ウ いらいら    エ ほとほと    オ あきあき

3 —線③「錯覚だと思おうとした」とありますが、その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 家族の日々の幸せがこわれてしまうのはつらいことだから

イ そのパジャマなしには眠れないほどお気に入りだから

ウ 前のままでいられなくなった自分の変化にとまどっているから

エ からだが大きくなれば服を新調するのは当然のことだから

オ 大好きなパジャマを裏切るのはよくないことだから

4 —線④「母さんは、そんなあたしの顔をじっと見てから、にっこりと笑った。」とありますが、このときの「母さん」の気持ちとしてふさわしいものを次の中から**すべて**選び、記号で書きなさい。

ア 「あたし」が前とは変わってしまったことを恥じていると思い、はげまそうとしている。

イ 「あたし」がパジャマを着られないことを悲しんでいると思い、なぐさめようとしている。

ウ 「あたし」がパジャマを手放すのを内心では喜んでいると思い、成長を受けとめている。

エ 「あたし」が大切に愛着のあったものに未練を残していると思い、傷つけまいとしている。

オ 「あたし」が子どもあつかいされてきたことに反発していると思い、ほほえましく感じている。

5 —線⑤「『いい笑顔』がつくれるようになった」とありますが、どういふことですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア どんなに嫌いであっても、好きなふりをするということ

イ 親を喜ばせるために、いい子になろうとすること

ウ 自分の本心はいっさい言わずに他人と関わりを持つこと

エ 相手を喜ばせることが自分の幸せになったということ

オ その場は割り切って相手の期待する行動をとること

6 — 線⑥「あのととき」の内容としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 嫌いだつたスカートを好きになったとき

イ 兄と弟と三人だけで楽しく遊んでいたとき

ウ 兄がいつしよに遊ばなくなったとき

エ 新しいパジャマを作ってもらったとき

オ ハランと遊ぶのがつまらないと感じはじめたとき

7 「あたし」の人物像について、この文章から読みとれることとしてふさわしいものを次の中からすべて選び、記号で書きなさい。

ア 自分の成長に気づきつつも、周りの人の気持ちをくんで子どもらしくふるまっている女の子

イ 自分の心の動きにとっても敏感で、背のびや我慢をやめて自分らしく強く生きていこうとする女の子

ウ 兄のことはしたっているが、弟にはつい厳しくなり、家族とのよい距離感を見つけられない女の子

エ 家族や暮らしにいつも不満をかかえていて早く大人になりたいと思う、ませた女の子

オ むじやきな子ども時代を終え、自分が少女らしく成長したことに気づくようになった女の子

⑤ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい（数字表記については、算用数字を漢数字に改めました）。

先日、香港<sup>ホンコン</sup>に行った。娘<sup>むすめ</sup>が住んでいるので何度も訪ねている香港だが、ここには①独特<sup>どとく</sup>の面白さがあるように思う。一七年前にイギリスから中国に返還<sup>へんかん</sup>されたが、アジア・中国の色彩<sup>しきさい</sup>のなかにヨーロッパの香<sup>か</sup>りが漂<sup>ただよ</sup>い、ユニークな表情<sup>へいしやう</sup>を見せている。

香港はまず空港から度肝<sup>どきん</sup>を抜<sup>ぬ</sup>かれる。その広さ、シヨップの多さ、レストランの品ぞろえまで、すべてが桁違<sup>けたが</sup>いだ。しかも便利である。静かで清潔<sup>せいせつ</sup>な（注①）エアポートエクスプレスに乗れば、三〇分足らずで中心地<sup>しんしやうち</sup>に到着する。かつての啓徳<sup>けいとく</sup>空港は、高いビルが立ち並ぶ狭い空間<sup>せま</sup>での離発着<sup>りはつちやく</sup>を強<sup>し</sup>いられ、パイロットが最も緊張<sup>きんちやう</sup>する空港と言われたものだった。それが生まれ変わった。つい成田空港の不便さを思い出してしまふ。

香港の交通機関はタクシー、二階建てバス、地下鉄、電車など種類が多く、しかも運賃が安い。先ほどのエクスプレスが一〇〇香港ドル（約一〇〇円）と（注②）ダントツに高いが、一般<sup>いっぱん</sup>のタクシーは初乗りが二〇香港ドル（約二〇円）。これは最近少し値上がりしたが、それでも安い。バスもかなりの距離<sup>きやうり</sup>を走っても一〇〇円足らずと格安だ。

先だって、その香港から驚<sup>おどろ</sup>くようなニュースが入ってきた。香港が男女ともに世界一の長寿<sup>ちやうしゆ</sup>を記録したというのである。二〇一二年七月に香港統計局が発表したデータによると、二〇一一年の香港人の平均寿命<sup>じゆんみやう</sup>は、男性八〇・三歳<sup>さい</sup>、女性八六・七歳で、日本を抜いて世界一に躍<sup>おど</sup>り出<sup>で</sup>た。

最長寿命国といえば日本と決まっていたのに、東日本大震災<sup>だいじんさいざい</sup>の影響<sup>えいぎやう</sup>とはいえ、トップの座を香港に譲<sup>ゆず</sup>り渡<sup>わた</sup>したのだ。しかし、香港は高温多湿<sup>こうおんたしつ</sup>で、蒸<sup>む</sup>し暑<sup>あつ</sup>い時期が長く続く。決して、気候に恵<sup>めぐ</sup>まれていたとは言えない。しかも人口密度が高い。人口は七二〇万人で日本よりもはるかに少ないが、面積が狭いため人口密度は日本の約二〇倍もある。これは住居が狭いなど、生活環境<sup>せいかくかんきやう</sup>があまり良くないことに通じている。細いノッポビルが林立する香港特有の景観は、夜景に限れば息をのむほど美しいが、②住宅事情<sup>ちやうしやうじやう</sup>のなせる技<sup>わざ</sup>でもあるのだ。アパートは借りるにも買うにも、目玉が飛び出る高さである。あれこれ考えると、香港の人の③

それならばいったい香港人の寿命はなぜ世界一なのか。

人に聞いたりネットで調べたり私自身の観察から、いくつかの理由が考えられる。まず、食べ物に対して異様とも思えるほど関心が高い。食べながら病気を治す、あるいは食べて病気を予防する④医食同源<sup>いしきどうげん</sup>というとなえ方が浸透<sup>しんとう</sup>していて、一日三回の食事のどれもいい加減にしない。それぞれ必ず栄養のあるおいしいものを口に入れようと情熱を燃やす。

私たちがレストランで昼食を取っていると、外を歩く人がガラス窓のすぐ近くまで寄ってきた。にこにこしながら覗<sup>のぞ</sup>きこみ、「おいしそう！ 何を食べているの」と聞きたそうな顔つきをする。食事中の人のそばに来て皿の中をじっと見ることは日本ではマ

ナー違反だが、香港の人は遠慮なく（注3）凝視するのだ。【ア】

食べることを重要視しない人は、まずいない。マーケットを歩き回って新鮮な食材を買い求め、評判の良いレストランには列をつくって辛抱強く待つ。バランスのとれた体に良いものを追求する。食に対する執念は生命力に通じ、長生きの原動力となっているのではないだろうか。

⑤A 漢方薬、（注4）薬膳スープ、それにお茶をよく飲む。水分の摂取は体には良い事なのだろう。【イ】香港は狭いだけあつて、坂道が多い。お年寄りも含め、香港の人は上がったり下がったりを繰り返すから、いつの間にか足腰を鍛えている。町は活気にあふれていて、そのエネルギーから受ける刺激も大きいだろう。

さらに香港を歩くと、若い男女が両親と考えるお年寄りと腕を組んだり手をつないだりして歩く姿をよく見かける。お年寄りを大切にする習慣が根付いていることに感じ入る。香港も高齢化が進み独り暮らしの高齢者が増えているそうだが、子や孫など家族がひっきりなしに訪れて一緒に行動をしているようだ。家族のきずなが、大切にされているのだろう。

香港は多くの人種が入りまじる国際的な国だが、その中でも特にフィリピンの女性が目立っている。彼女たちは、共働きが多い香港の夫婦が雇うメイドさんで、住み込みで赤ちゃんの面倒を見ている。フィリピンやインドネシアからいわゆる出稼ぎに来ていて、故郷の父母に預けた自分の子どもの養育費や教育費を送金しているという。【ウ】

香港の人はメイドさんを雇うことに抵抗がないから、高齢者が家事を依頼することも多い。【エ】また香港の街を歩くと酔っ払いが少なく、タバコを吸う人もほとんど見かけない。公園では黙々と（注5）太極拳に励む高齢者の姿もある。医療先進国など他にもまだまだたくさん挙げられるのかもしれないが、数々の要因が重なって効果を上げ、世界一の長寿国に押し上げたのは間違いないさそうだ。

⑤B、むろん寿命の長さがすべてではない。寿命が長ければ必ず幸せであるとは限らない。元気に自立して活動ができる「健康寿命」こそ大切だ。香港はこれも延びるだろうと予想されている。【オ】香港の寿命の長さは、大切なことをいくつも私たちに教えている。⑥「健康」という面からみると、香港の魅力がさらに増すかもしれない。

（多賀幹子「香港はなぜ最長寿命国なのか」『月刊高校教育』学事出版 による）

注1 エアポートエクスプレス Ⅱ 香港の空港と市街地を

むすぶ特急列車

注3 凝視する Ⅱ じっと見つめる

注4 薬膳 Ⅱ 中国の医学理論に基づいて、薬となる食材を使った料理

注2 ダントツ Ⅱ 他をひきはなしてトップであること

注5 太極拳 Ⅱ 中国の武術の一つ。現代では健康のために習う人が多い

1 ———線①「独特の面白さ」とありますが、どういうことですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 空港が整備されていて、交通機関の運賃が安いこと

イ 男女ともに世界一の長寿を記録したこと

ウ アジアとヨーロッパの文化・伝統・習慣を合わせ持つこと

エ 坂道が多いために、町に活気があふれていること

オ メイドさんが多く、自分では全く家事をしないこと

2 ———線②「住宅事情のなせる技でもある」とありますが、どういうことですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 美しい夜景も、昼間見ると家賃を思いうかべて幻滅げんめつしてしまうということ

イ 蒸し暑さからのがれるために、街が縦に高くならざるを得ないということ

ウ 高層住宅の快適さを求めて、高いビルが増えてしまったということ

エ ビルが林立して夜景が美しいのは、人口密度の高さが原因であるということ

オ 最長寿国となったのは、住居が狭く厳しい生活環境の表れであるということ

3 ———線③にあてはまることばとして、ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア ストレス      イ 食欲      ウ バランス      エ 生命力      オ 努力

4 ———線④「医食同源」の説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 食べ物に対する執念が長生きをもたらすと信じ、異様なほどに食にこだわること

イ おいしいものを食べれば病気が治ると考えて、日々美食を追求しながら暮らすこと

ウ 食事のマナーも気にせず、食べることに執着しゅうちゃくして健康を作ろうとすること

エ 食べ物の栄養の力によって、体を守り病気に打ち勝とうとする考え方のこと

オ 一日三回の食事すべてにおいて、おいしさと美しさの両方を兼ねた食べ物を食べること

5      ⑤A、⑤B にあてはまることばの組み合わせとして、ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア    Aそこで      Bだが

イ    Aそして      Bさらに

ウ    Aだから      Bそこで

エ    Aしかも      Bつまり

オ    Aまた      Bしかし

6      線⑥『健康』という面からみると、香港の魅力がさらに増すかもしれない。」とありますが、どういうことですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア    安くておいしいものをたくさん食べられるレストランが多いことが、香港の長寿をもたらしている。

イ    不利な条件にもかかわらず世界一の長寿となった香港の、健康に関する様々な文化に注目するとよい。

ウ    おいしいものを食べるに気軽に散歩しやすい香港の交通環境が、長寿をもたらしている。

エ    美しい夜景と坂道の多い魅力的な香港の街は住むのに快適で、長く健康を保てる人が多い。

オ    高齢者と若者がともにいきいきと暮らす香港は、これからのモデルとして諸外国も見習うべきである。

7      この文章には次の一文がぬけています。文章中の【ア】～【オ】の中で、この文が入る場所としてふさわしいところを一つ選び、記号で書きなさい。

こうしたライフスタイルも高齢者を助けているのかもしれない。

(問題はこれで終わりです)

